

温泉ヶ岳&根名草山山行報告

【山行日】2021年 10月 24(日) 晴れ

【集 合】栃木市運動公園P AM 4:00

【費 用】マイカー1台 : 1,500円

【メンバー】CL:鈴木、SL大西

安西、嶋田、関、廣瀬、福島、藤原

【コースタイム】栃木市運動公園P4:00＝

金精峠登山口P5:40/5:55～金精峠 6:35～

温泉ヶ岳 8:00～念仏平避難小屋 9:10/9:20～

根名草山 10:30/10:45～念仏平避難小屋

11:45/12:20～温泉平 13:00～金精峠 14:00～金

精峠登山口P14:30/14:45＝栃木市運動公園P19:10



根名草山に登りたいとリクエストがあり、金精峠登山口からピストンで登るコースを計画した。前日は県境の山は雪の予報だったので、登山口まで道路が凍ってないか心配したが大丈夫だった。駐車場は工事関係の建屋や資材が置かれ、6台しか止められなかったが2台分空いて止められた。



準備を整えストレッチを行ったら出発する。駐車場の右奥から緩やかに登り、アルミのハシゴを渡した箇所は雪で滑るので慎重に渡る。オオシラビソやコメツガの林に入ると急登になり、ハシゴやロープを頼りに登って行く。高度が上がるにつれ雪が多くなり、滑らないよう足の置き場を考えながら登り金精峠に出る。小休止して衣服調整を行い、水分を補給する。峠からゆるやかな登りが始まり、オオシラビソやコメツガの道を登って行く。やがてジグザグに登るようになり、

後方には日光白根山が望めるが山頂は雲に覆われていた。高度を上げるにしたがって雪が深くなり、先頭のSLが苦戦している所以我輩が先頭を歩く。15cm～20cmの積雪があるが、

吹き溜まりは40cmを越える積雪である。2人先行者のトレースあり、トレースが深い所は雪で埋めながら進む。稜線からゆるやかな樹林帯の歩きになり、温泉ヶ岳の分岐に着く。小さな標識があり、左に進んで急坂を15分程登ると温泉ヶ岳山頂に着く。

山頂には三角点と山頂標識が置かれ、展望が良く日光連山や尾瀬の山々が望める。

展望を楽しみながらリンゴや菓子をいただき、記念写真を撮ったら分岐まで戻る。分岐を左に進み、温泉ヶ岳の東側をトラバースして進む。



笹の斜面に雪が積もり、滑りやすい道を笹に掴まりながら慎重に進む。右手に日光連山や刈込湖



を望み、「ウワ～綺麗」と歓声が上がる。景色を楽しみながら進むと、平坦な道になり展望が良い温泉平に着く。小休止し展望を楽しんだら樹林帯の中を下ると、前から先行した方が登って来た。

「トレース有難うございました。」とお礼を言い、下り切った所で沢を渡って登り返すと旧念仏平避難小屋跡に着く。ここから300mほど登ると白い念仏平避難小屋に着き、小屋の南側にあるベンチで大休止を取る。丸太のイスに積もった雪を払い昼食時のイスを確保し、昼食のお湯などを小屋の下にデ

ポする。菓子やゼリーを食べてエネルギーを補給し、少し軽くなったザックを背負い根名草山山頂を目指す。オオシラビソやダケカンバの道を少し下り、再び登り返して細かいアップダウンを繰り返しながら登って行く。やがて岩がゴツゴツした

稜線を登り、視界が開けてくると根名草山山頂に出る。山頂には三等三角点と山頂標識が立ち、北西側が開けて尾瀬の燧ヶ岳や会津駒ヶ岳方面の眺望が素晴らしい。眺望を楽しみながらカントウをいただき、記念写真を撮ったら下山する。山頂下で東側の尾根に登ると日光連山の眺望が素晴らしく、盟主の男体山から大真名子・小真名子山、帝釈山から女峰山まで全てが見渡せる。皆さんも雪の斜面を登って来て、普段と反対側から見る日光連山に



感動していた。皆さん雪の歩きに慣れて来て、下りでもテンポよく歩き念仏平避難小屋まで戻り昼食を摂る。雪を払った丸太のイスは乾いていて、それぞれが椅子を確保してランチをいただく。



お湯を沸かしてカップ麺やスープを作り、おにぎりやパンをいただいた。陽射しがとても暖かく、のんびりデザートやお茶をいただき下山する。

避難小屋からも往路を戻り、日光連山や白根山の眺望を楽しみながら軽快に下って行く。

温泉平で小休止し、温泉ヶ岳のトラバースは慎重に下る。温泉ヶ岳分岐先の尾根から、雪を纏った白根山が素晴らしく「雪が降った直後でないと思えない景色だね」と感動していた。金精峠まで下って最後の休憩を取り、リンゴや残りの菓子を食ベ

登山口に向かう。峠からも急坂を下り、ハシゴやロープを使って慎重に下り無事に下山する。

靴を履き替えて帰路につくが、戦場ヶ原の先から渋滞が始まりイロハ坂を下るまで2時間掛かった。

望外の雪景色で山は素晴らしかったが、道路の渋滞で2時間遅れての帰着になってしまった。